



令和 2 年 度
県 政 世 論 調 査
概 要 報 告 書



静 岡 県

目 次

調査の概要	1
(生活についての意識)	
暮らし向き	2
日常生活の悩みや不安	3
静岡県の住みよさ	4
(県の仕事に対する関心)	
県政への関心度	5
行政機関への意見や要望、不満	6
広報媒体の浸透度	8
日常の課題や生活における意識	11
新県立中央図書館の整備	19
寄附に関する意識	20
防犯に関する意識	21

調査の概要

1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

2 調査の内容

- (1) 生活についての意識
- (2) 県の仕事に対する関心
- (3) 新県立中央図書館の整備
- (4) 寄附に関する意識
- (5) 防犯に関する意識

3 調査の設計

- (1) 調査地域 静岡県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満 18 歳以上の県民
- (3) 標本数 4,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法（配布及び回収）
- (6) 調査時期 令和 2 年 6 月 17 日～7 月 7 日
- (7) 調査機関 株式会社東京商工リサーチ

4 回収結果

	18 歳以上の 推定人口	標本数	有効回収率 (%)
東 部	1,015,894	1,342	700 (52.2)
中 部	972,885	1,272	691 (54.3)
西 部	1,080,919	1,386	800 (57.7)
地域不明			59 (—)
全 県	3,069,698	4,000	2,250 (56.3)

この冊子の読みかた

- 1 結果は百分率で表示し、小数第 2 位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 数値やグラフの中の「件数」、「n」(number of cases の略) は回答者総数（あるいは分類別の該当者数) を示し、回答比率はこれを 100% で表した。質問の「S Q」(Sub-Question の略) は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに続けて行った質問を示す。

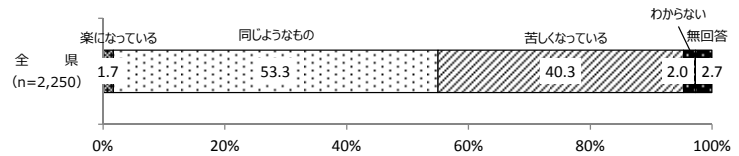
暮らし向き - 「苦しくなっている」が40.3%

Q1 お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべて楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。(〇は1つ)

SQ お宅の暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由は何ですか。(〇は3つまで)

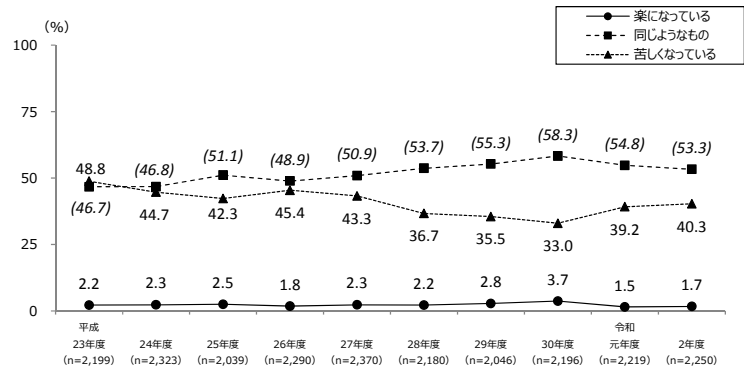
暮らし向き

●暮らし向きが「同じようなもの」と回答している人は53.3%、「苦しくなっている」人は40.3%となっている。



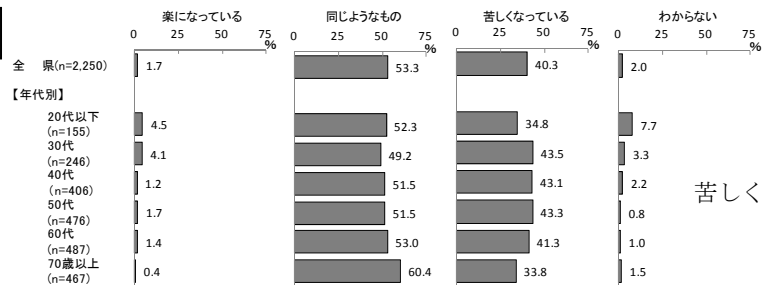
経年比較

●平成23年度以降の推移でみると、「同じようなもの」と回答した人の割合は、平成27年度から4年連続で増加したが、以後2年連続で減少している。「苦しくなっている」は、平成28年度から4年連続で4割を下回っていたものの、今年度は前年度から1.1ポイント高くなり4割を超えた。



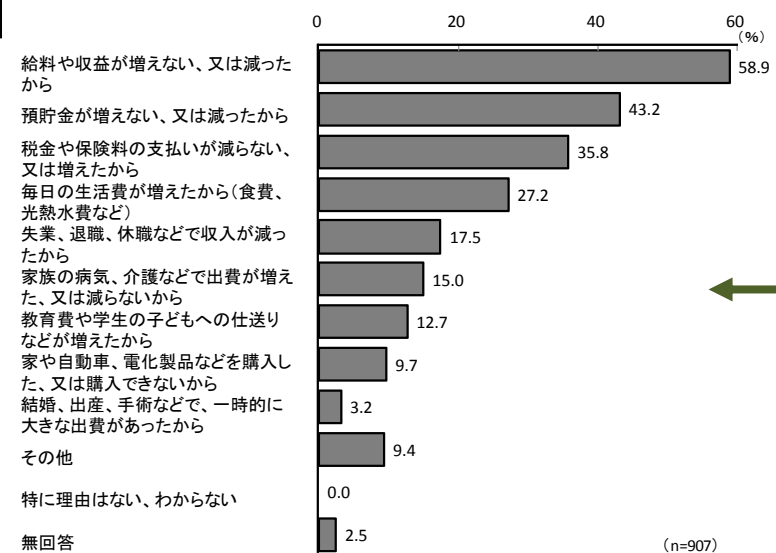
年代別

●「同じようなもの」と回答した人の割合はどの年代も「苦しくなっている」を上回っている。また、「苦しくなっている」は『70歳以上』において33.8%と最も低く、『30代』で43.5%と最も高くなっている。



SQ 苦しくなっている理由

●暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由については、「給料や収益が増えない、又は減ったから」が58.9%と最も高く、次いで「預貯金が増えない、又は減ったから」が43.2%、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」が35.8%、「毎日の生活費が増えたから(食費、光熱水費など)」が27.2%となっている。



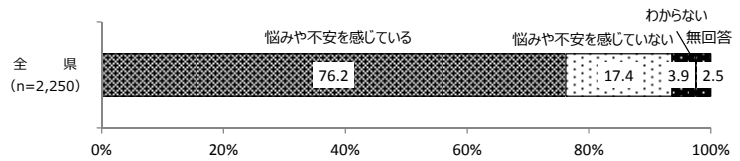
日常生活の悩みや不安 — 「悩みや不安を感じている」人が76.2%

Q2 あなたは、日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも特に悩みや不安を感じていませんか。(〇は1つ)

SQ 悩みや不安を感じていることは、どのようなことですか。(〇はいくつでも)

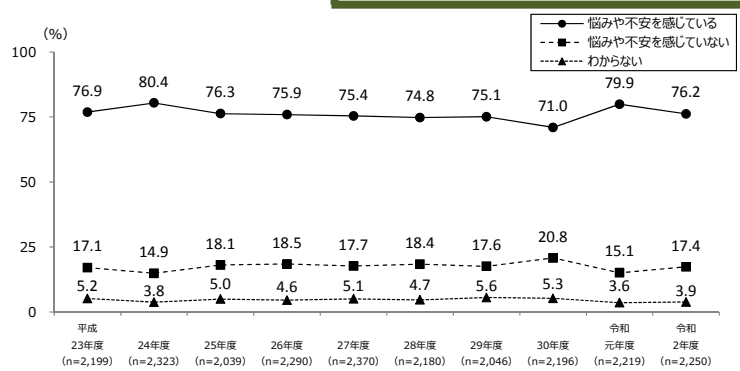
日常の悩みや不安

●日常生活の悩みや不安について「悩みや不安を感じている」と回答した人の割合は76.2%で最も高く、「悩みや不安を感じていない」は17.4%だった。



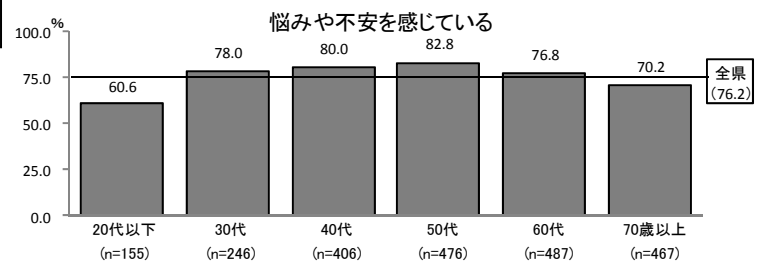
経年比較

●平成23年度以降の推移でみると、「悩みや不安を感じている」と回答した人の割合は、平成23年度以降においては7割以上で推移している。今年度(76.2%)は前年度(79.9%)から3.7ポイント低くなっている。



年代別

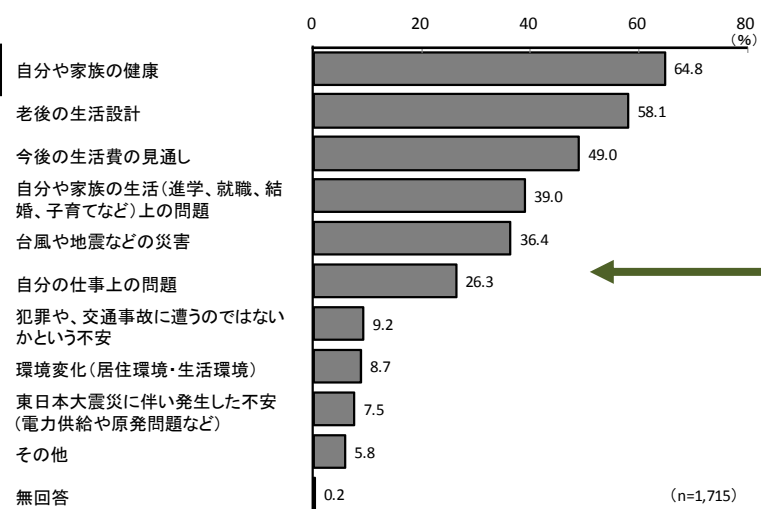
●年代別にみると、「悩みや不安を感じている」は『20代以下』(60.6%)においてはほぼ6割と最も低くなっている。



悩みや不安を感じている
76.2%

SQ 悩みや不安の内容

●悩みや不安の内容については、「自分や家族の健康」と回答した人の割合が64.8%と最も高く、次いで「老後の生活設計」が58.1%、「今後の生活費の見通し」が49.0%、「自分や家族の生活(進学、就職、結婚、子育てなど)上の問題」が39.0%などとなっている。

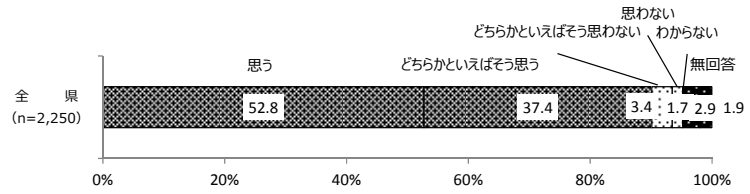


静岡県の住みよさ -住みよいところだと「思う」人が90.2%

Q3 あなたは、静岡県は住みよいところだと思いますか。(〇は1つ)
SQ あなたが、静岡県は住みよいところだと思う理由はなんですか。(〇は3つまで)

静岡県の住みよさ

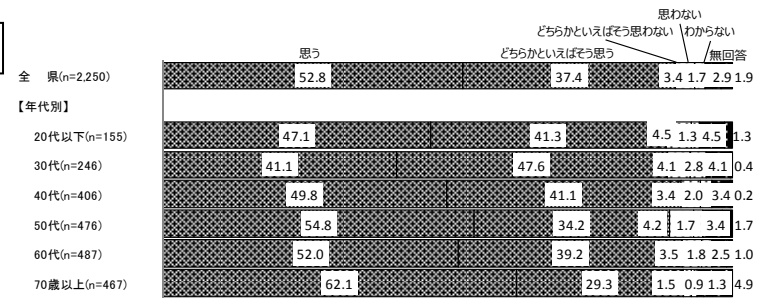
●静岡県は住みよいところだと思うかについては、「思う」と回答した人の割合が52.8%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が37.4%となっている。
 「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた90.2%が静岡県を住みよいところだと「思う」と回答し、「思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた5.1%が静岡県は住みよいところだと「思わない」と回答している。



住みよいと思う 90.2%

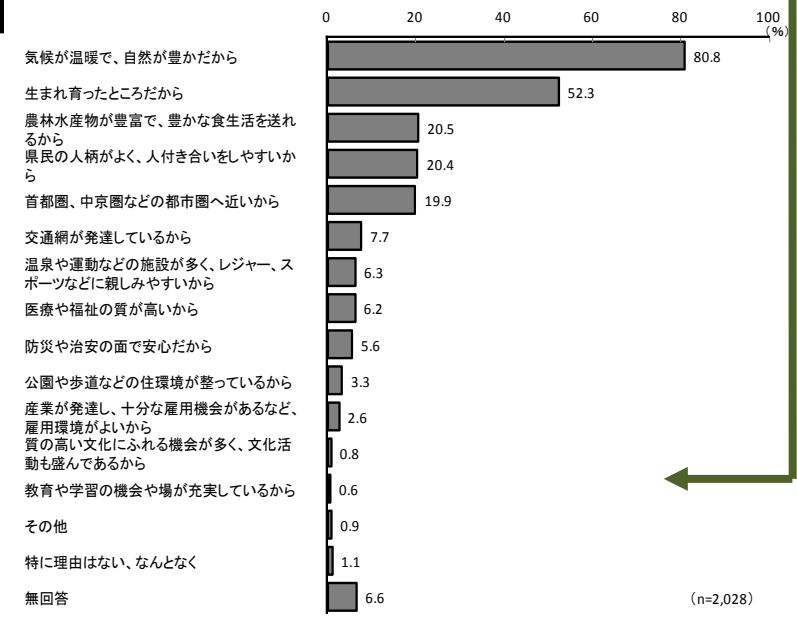
年代別

●年代別にみると、「思う」と回答した人の割合が『70歳以上』(62.1%)において最も高くなっている。



SQ 住みよいところだと思う理由

●静岡県が住みよいところだと思う理由については、「気候が温暖で、自然が豊かだから」と回答した人の割合が80.8%と最も高く、次いで「生まれ育ったところだから」が52.3%、「農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから」が20.5%となっている。



県政への関心度 — 「関心がある」人は 64.7%

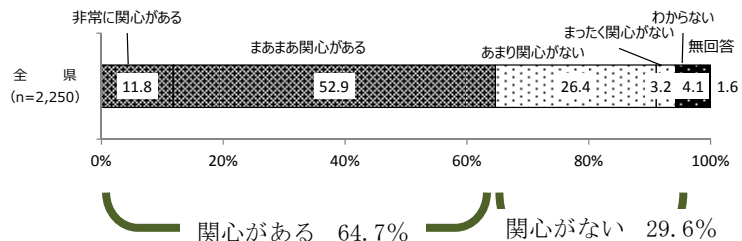
Q4 あなたは、県の政治や行政にどの程度関心がありますか。(〇は1つ)

SQ1 県政に関心がある理由はなんですか。(〇は1つ)

SQ2 県政に関心がない理由はなんですか。(〇は1つ)

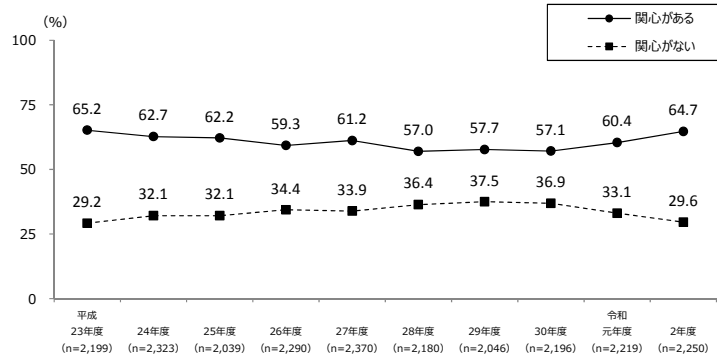
県政への関心度

● 県政への関心の有無については、「非常に関心がある」と回答した人と「まあまあ関心がある」と回答した人を合わせた「関心がある」人の割合は 64.7%で、一方、「まったく関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた「関心がない」人の割合は 29.6%で、県政への関心がある人の方が高くなっている。



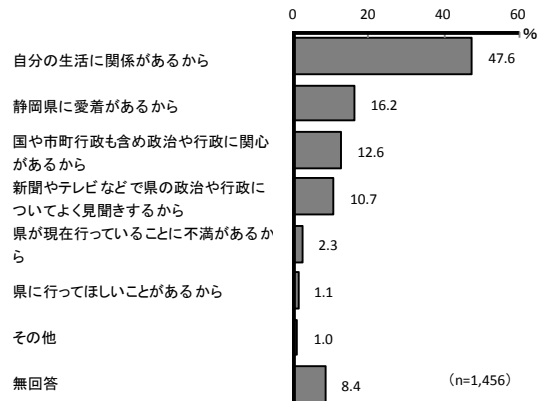
経年比較

● 平成 23 年度以降の推移でみると、「関心がある」人の割合は平成 23 年度において 65.2%と最も高くなり、平成 24 年度以降は 6 割前後で推移している。今年度は前年度より 4.3 ポイント増加している。



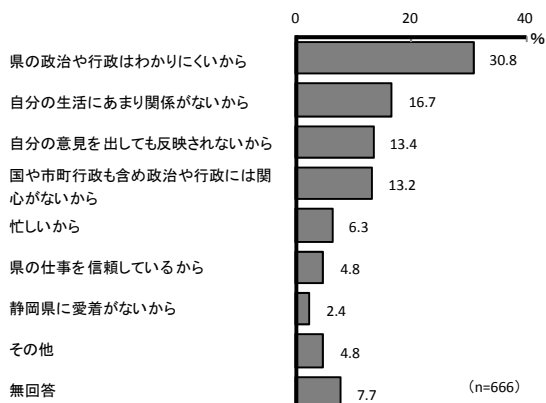
SQ1 関心のある理由

● 関心がある理由については、「自分の生活に関係があるから」と回答した人の割合が 47.6%と 5 割弱を占め最も高く、次いで「静岡県に愛着があるから」が 16.2%、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」が 12.6%などとなっている。



SQ2 関心のない理由

● 関心がない理由については、「県の政治や行政はわかりにくいから」と回答した人の割合が 30.8%と最も高く、次いで「自分の生活にあまり関係がないから」が 16.7%、「自分の意見を出しても反映されないから」が 13.4%、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」が 13.2%などとなっている。



行政機関への意見や要望、不満

—行政機関に意見や要望、不満が「ある」人が46.7%

Q5 あなたは、この1年間に行政機関の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたりしたことがありますか。(〇は1つ)

SQ1 それは、どの行政機関が担当する仕事ですか。(〇はいくつでも)

SQ2 その県が担当する仕事についての意見や要望、不満は、県に伝える必要があると思いましたか。(〇は1つ)

SQ3 それでは、そのことを県に伝えましたか。(〇は1つ)

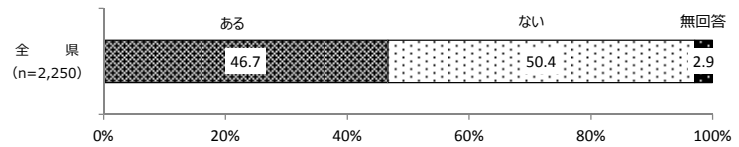
SQ4 どのような手段で伝えましたか。(〇はいくつでも)

SQ5 意見や要望不満があっても、県に伝えなかった主な理由は何ですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。(〇は1つ)

SQ6 どうしてそのように思ったのですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。(〇は1つ)

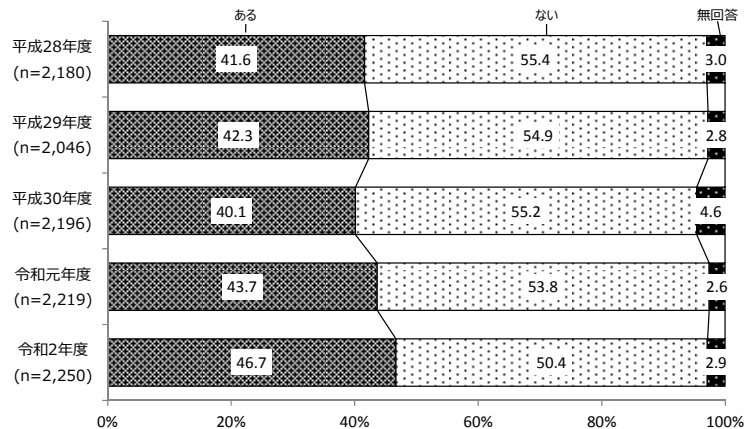
行政機関への意見や要望、不満

●行政機関への意見や要望、不満の有無については、「意見等がある」と回答した人の割合が46.7%、「意見等がない」は50.4%となっている。



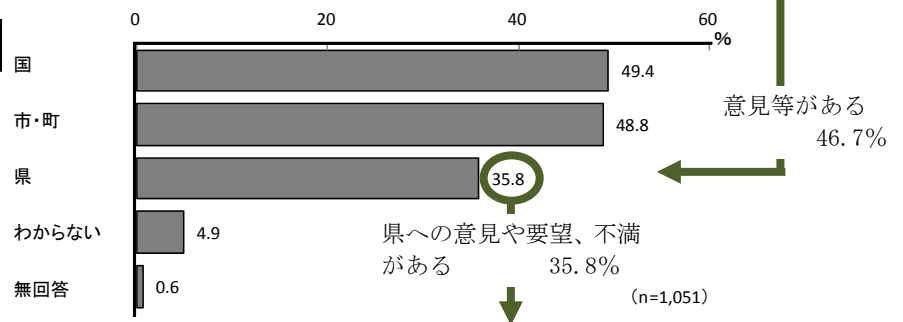
経年比較

●平成28年度以降の推移でみると、「意見等がある」は毎年度4割台で推移している。



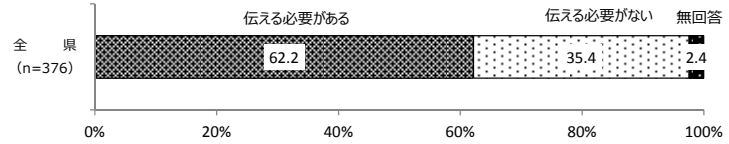
SQ1 担当する行政機関

●意見等を持った仕事の担当行政機関については、「国」と回答した人の割合が49.4%と最も高く、次いで「市・町」が48.8%、「県」が35.8%となっている。



SQ2 伝達の必要性の有無

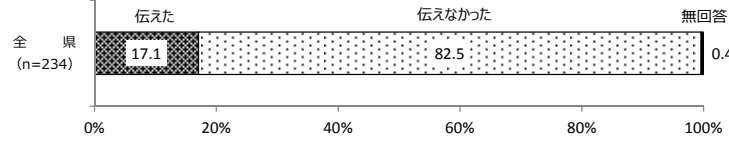
- 県の仕事について意見等がある人のうち、そのことを県に「伝える必要がある」と回答した人の割合は62.2%、「伝える必要がない」は35.4%となっている。



伝える必要がある 62.2%

SQ3 伝達の有無

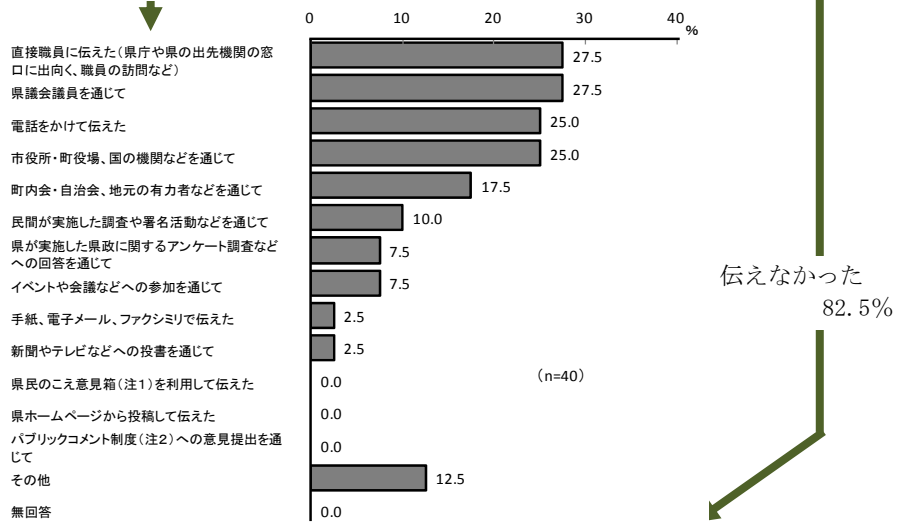
- 県の仕事について意見等がある人のうち、そのことを県に「伝えなかった」と回答した人の割合が82.5%と大半を占め、「伝えた」は17.1%にとどまっている。



伝えた 17.1%

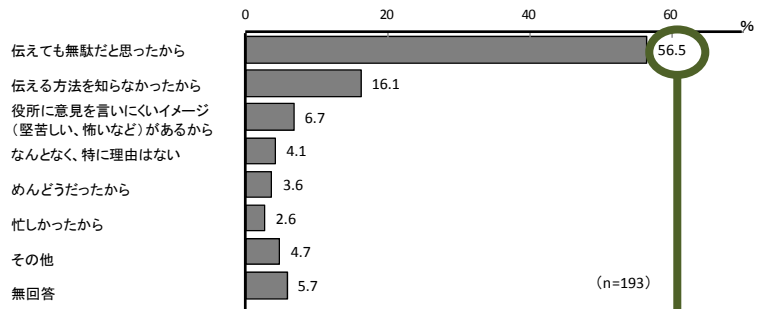
SQ4 伝達方法

- 県の仕事について意見等がある人が県に伝えた方法は、「直接職員に伝えた(県庁や県の出先機関の窓口に向く、職員の訪問など)」「県議会議員を通じて」と回答した人の割合がともに27.5%で最も高く、次いで、「電話をかけて伝えた」「市役所・町役場、国の機関などを通じて」がともに25.0%となっている。



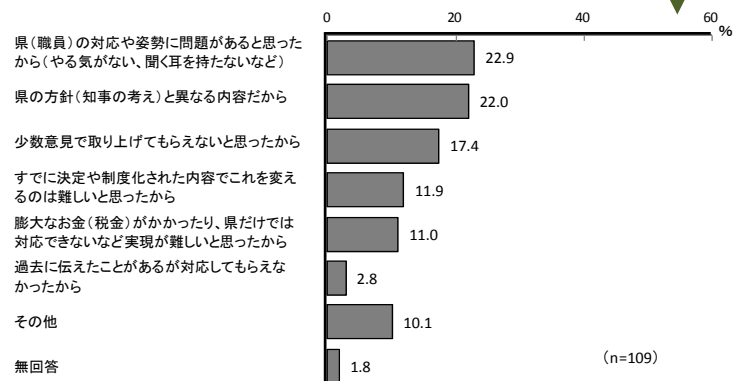
SQ5 伝達しなかった理由

- 意見等があっても県に伝えなかった理由は、「伝えても無駄だと思ったから」と回答した人の割合が56.5%と最も高く、次いで「伝える方法を知らなかったから」が16.1%となっている。



SQ6 「伝えても無駄だと思った」理由

- 伝えても無駄だと思った理由については、「県(職員)の対応や姿勢に問題があると思ったから(やる気がない、聞く耳を持たないなど)」と回答した人の割合が22.9%と最も高く、次いで「県の方針(知事の考え)と異なる内容だから」が22.0%、「少数意見で取り上げてもらえないと思ったから」が17.4%となっている。



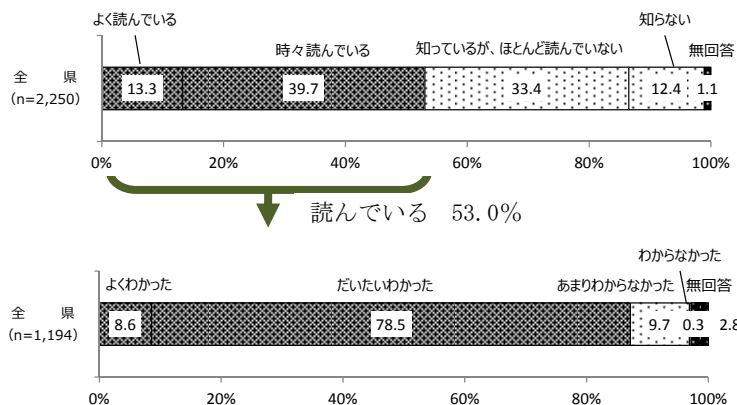
広報媒体の浸透度 — 「県民だより」を「読んでいる」人は53.0%

Q6 あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。それぞれについて、1つだけ選んでください。(○は1つ)

SQ 内容はわかりやすかったですか。(○は1つ)

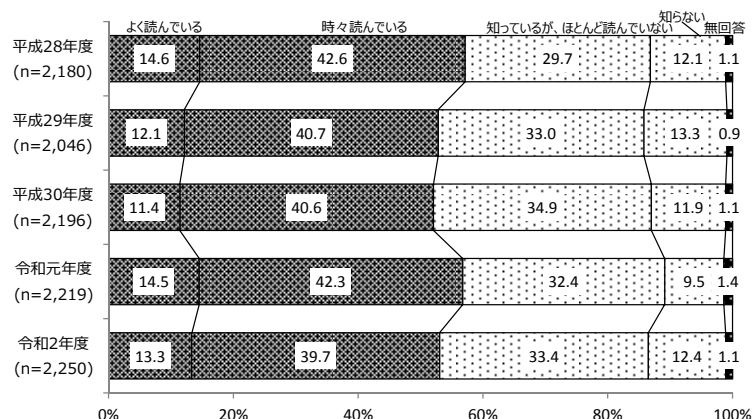
県民だより

- 県民だよりの浸透度については、「よく読んでいる」(13.3%)と「時々読んでいる」(39.7%)を合わせた53.0%が県民だよりを読んでいる。
- 県民だよりを読んでいると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」と「だいたいわかった」を合わせた87.1%の人がわかりやすかったと回答している。



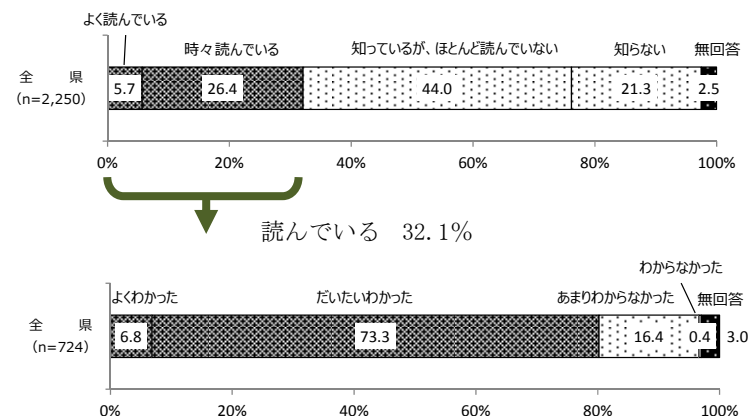
経年比較

- 平成28年度以降の推移でみると、県民だよりを読んでいる割合は、平成29年度、平成30年度と2年連続で前年度と比べ減少し、前年度は4.8ポイント増加したものの、今年度は前年度より3.8ポイント減少した。



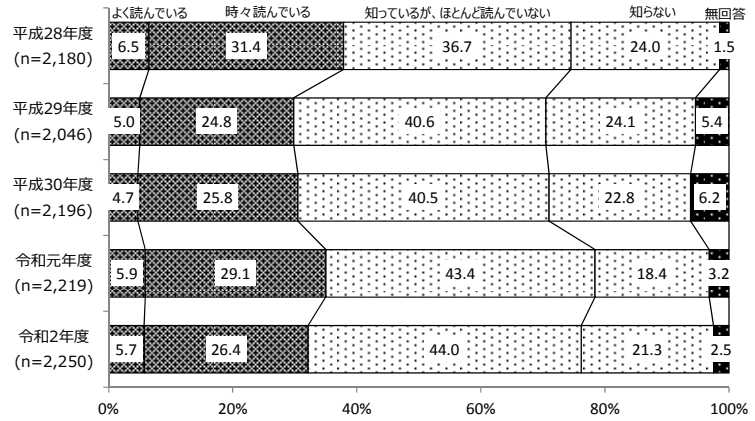
静岡県議会だより

- 静岡県議会だよりの浸透度については、「よく読んでいる」(5.7%)と「時々読んでいる」(26.4%)を合わせた32.1%が静岡県議会だよりを読んでいる。
- 静岡県議会だよりを読んでいると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」と「だいたいわかった」を合わせた80.1%の人がわかりやすかったと回答している。



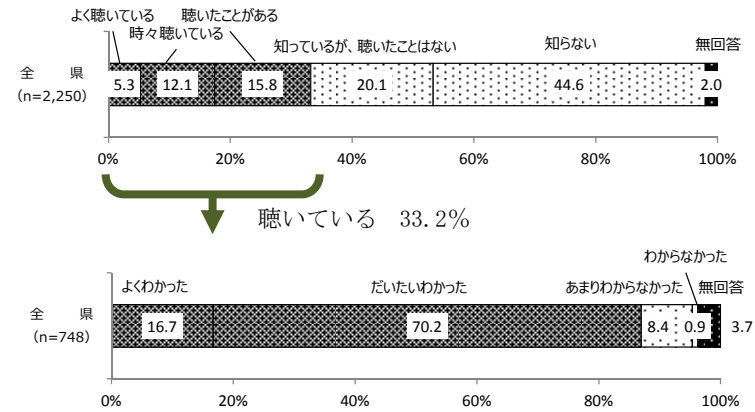
経年比較

- 平成28年度以降の推移でみると、静岡県議会だよりを読んでいる割合は、今年度は前年度に比べ2.9ポイント減少した。なお、静岡県議会だよりを認知している割合は毎年度7割台で推移している。



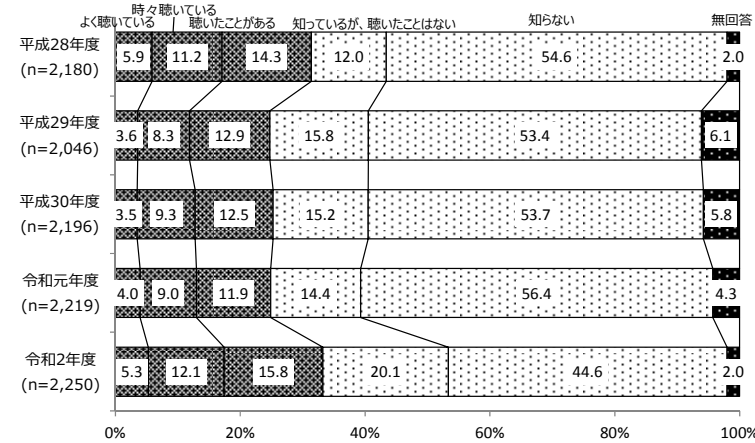
ラジオ広報

- ラジオ広報の浸透度については、「よく聴いている」(5.3%)と「時々聴いている」(12.1%)、「聴いたことがある」(15.8%)を合わせた33.2%がラジオ広報を聴いている。
- ラジオ広報を聴いていると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」と「だいたいわかった」を合わせた86.9%の人がわかりやすかったと回答している。



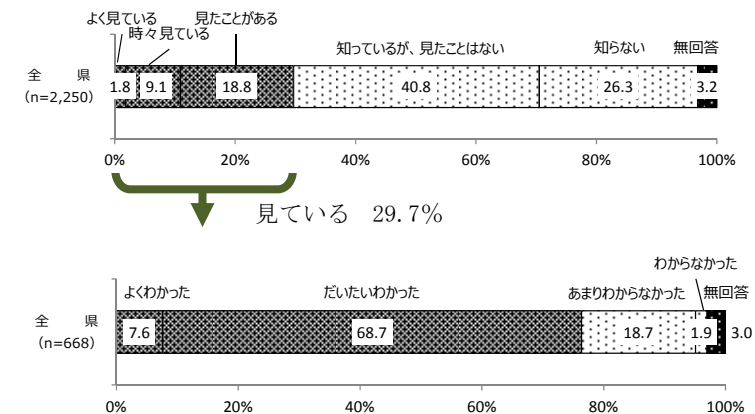
経年比較

- 平成28年度以降の推移でみると、ラジオ広報を聴いている人の割合は、今年度(33.2%)は前年度(24.9%)と比較して8.3ポイント上回り、過去5回調査で最も高い割合となった。



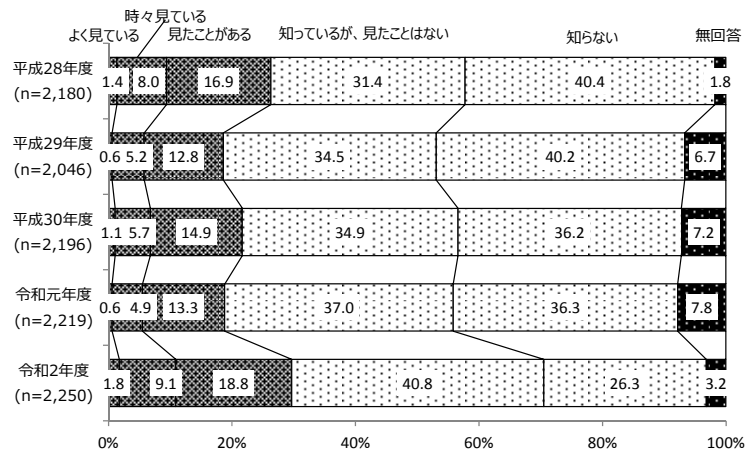
県のホームページ

- 県のホームページの浸透度については、「よく見ている」(1.8%)、「時々見ている」(9.1%)、「見たことがある」(18.8%)を合わせた29.7%が県のホームページを見ている。
- 県のホームページを見ていると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」と「だいたいわかった」を合わせた76.3%の人がわかりやすかったと回答している。



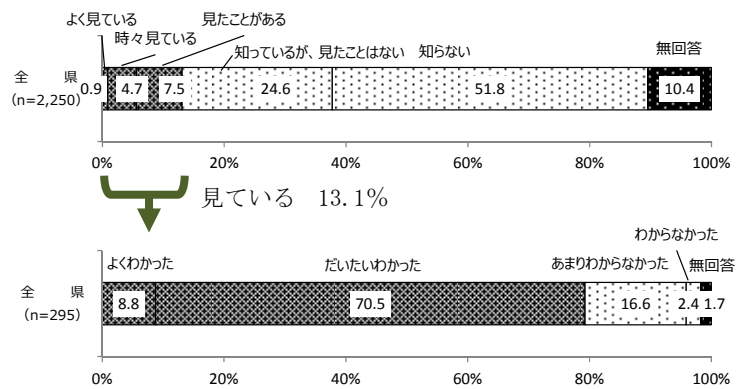
経年比較

- 平成28年度以降の推移で見ると、県のホームページを見ている割合は、前年度は2割未満であったが、今年度は3割弱と増加した。



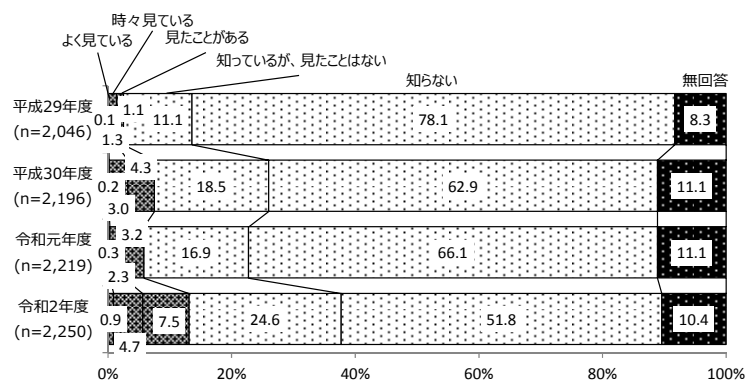
S N S

- SNSの浸透度については、「よく見ている」(0.9%)、「時々見ている」(4.7%)、「見たことがある」(7.5%)を合わせた13.1%がSNSを見ている。
- SNSを見ていると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「よくわかった」と「だいたいわかった」を合わせた79.3%の人がわかりやすかったと回答している。



経年比較

- 平成29年度以降の推移で見ると、SNSを見ている割合は、今年度(13.1%)は前年度(5.8%)と比較して7.3ポイント上回っている。



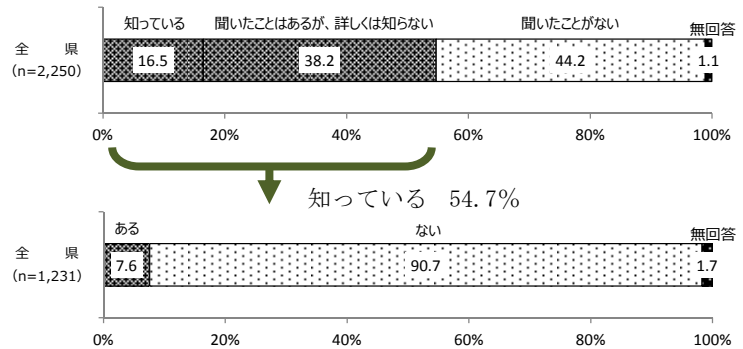
日常の課題や生活における意識

Q7 あなたは「県民の日」が8月21日に制定されていることを知っていますか。
(○は1つ)

SQ あなたは「県民の日」事業に参加したことがありますか。(○は1つ)

県民の日

- 「県民の日」の日程の認知については、「知っている」(16.5%)、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」(38.2%)を合わせた54.7%が県民の日を知っていると回答している。
- 「県民の日」事業の参加有無については、「ない」と回答した人の割合が90.7%で、「ある」(7.6%)を大きく上回っている。

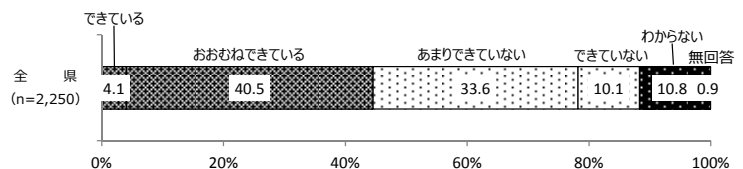


Q8 静岡県では、次の「有徳の人」づくりを進めています。あなたは、ご自身が日頃からこのような行動ができていると思いますか。(○は1つ)

※「有徳の人」とは、「個人として自立し、人との関わり合いを大切にしながら、よりよい社会づくりに参画し、行動する人」としています。

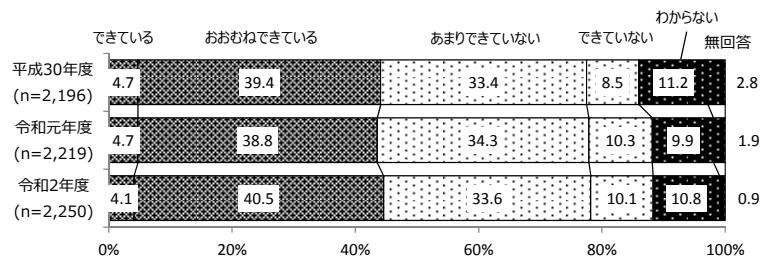
有徳の人づくり

- 「有徳の人」づくりについては、「できている」(4.1%)と「おおむねできている」(40.5%)を合わせた44.6%が「有徳の人」として行動できていると回答している。



経年比較

- 平成30年度以降の推移でみると、「有徳の人」として行動できていると思う人の割合は前年度の43.5%と比べて、今年度(44.6%)はわずかに高くなっている。



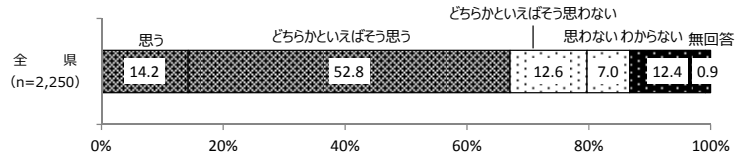
Q9

あなたのお住まいの地域は、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思いますか。(〇は1つ)

「地域の絆や支え合い」・・・地域の防災や防犯、環境美化、高齢者の見守り等の福祉などを含む幅広い住民のふれあいや助け合いの仕組みのことをいいます。

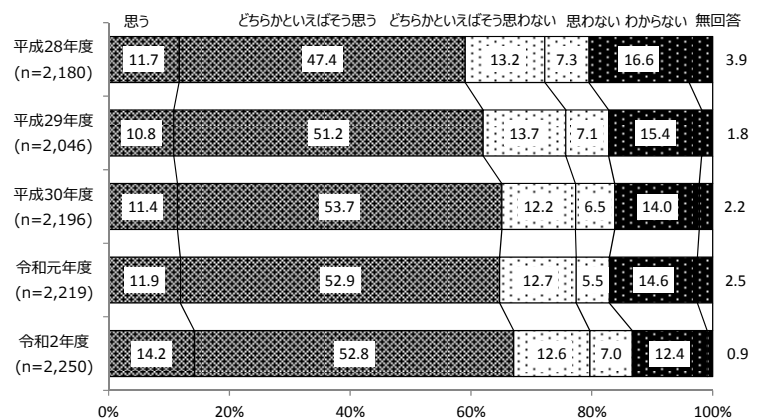
地域コミュニティの活性化

●地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思うかについては、「思う」(14.2%)、「どちらかといえばそう思う」(52.8%)を合わせた67.0%が、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思うと回答している。



経年比較

●平成28年度以降の推移でみると、子どもを生み、育てやすいところだと思う人の割合は毎年度5割台で推移している。

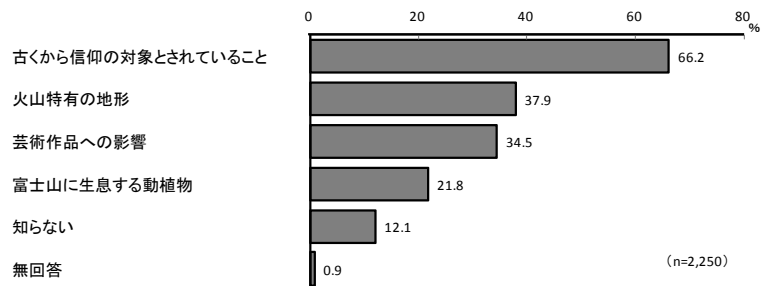


Q10

富士山は世界遺産として大きく2つの価値が認められました。あなたは、次のうち、どれが認められたと思いますか。(〇は2つ)

富士山の世界遺産としての価値の理解

●富士山の世界遺産としての価値の理解について、「古くから信仰の対象とされていること」(66.2%)が最も高く、6割以上となっている。以下、「火山特有の地形」(37.9%)、「芸術作品への影響」(34.5%)、「富士山に生息する動植物」(21.8%)となっている。また、「知らない」は12.1%となっている。

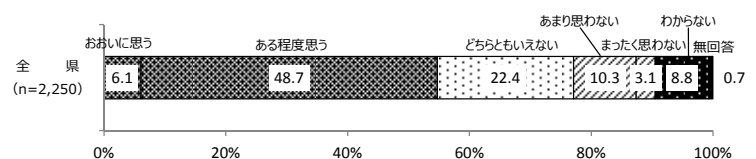


Q11

あなたがお住まいのまちは、子どもを生み育てやすいところだと思いますか。(〇は1つ)

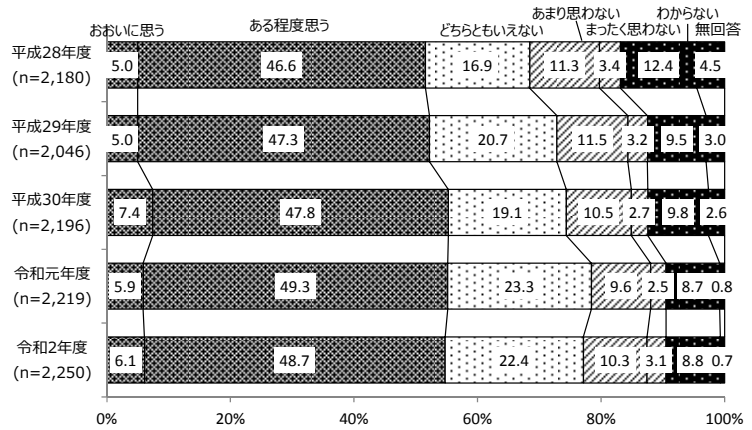
子どもの生みやすさ、育てやすさ

●子どもの生みやすさ、育てやすさについては、「おおいに思う」(6.1%)、「ある程度思う」(48.7%)を合わせた54.8%が、子どもを生み、育てやすいところだと思うと回答している。



経年比較

●平成28年度以降の推移で見ると、子どもを生み、育てやすいところだと思う人の割合は毎年度5割台で推移している。



Q12 あなたは、この1年でどのくらい、次にあげるような「子どもをはぐくむ活動」に参加しましたか。(〇は1つ)

「子どもをはぐくむ活動」の例

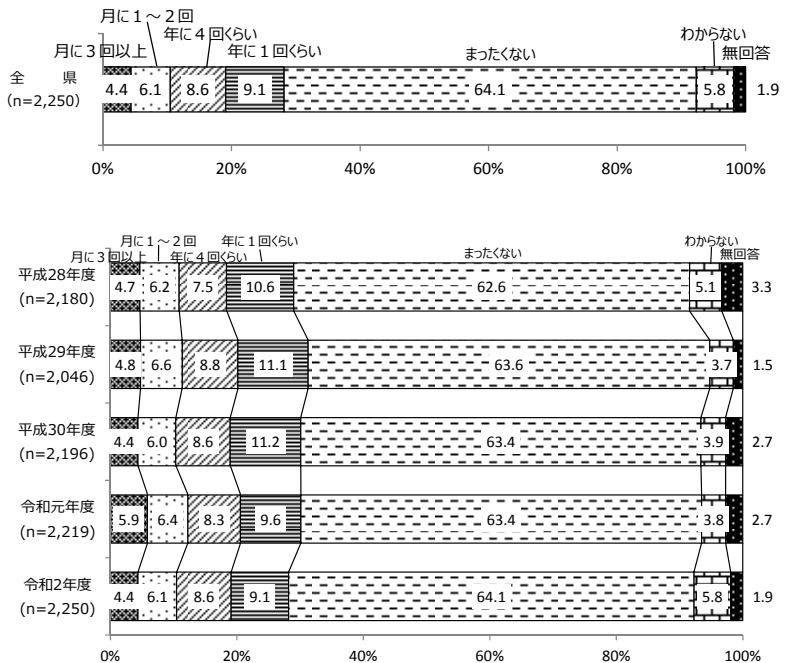
- ・PTAや健全育成会、子ども会、ボーイスカウト、スポーツ少年団、子育てサークル等の活動
- ・学校支援活動や地域における活動(授業や学校行事への協力、部活動支援、放課後子供教室、体験学習、郷土学習、花壇整備、登下校見守り、本の読み聞かせなど)

子どもをはぐくむ活動

●子どもをはぐくむ活動については、「月に3回以上」(4.4%)、「月に1~2回」(6.1%)、「年に4回くらい」(8.6%)、「年に1回くらい」(9.1%)を合わせた28.2%が子どもをはぐくむ活動を「している」と回答している。

経年比較

●平成28年度以降の推移で見ると、子どもをはぐくむ活動を「している」人の割合は、毎年度3割前後で推移している。

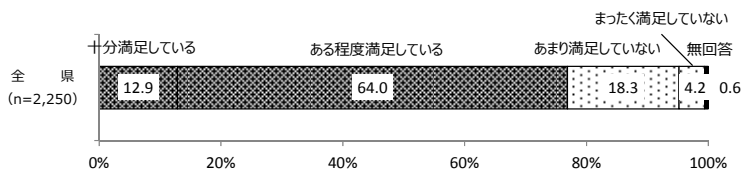


Q13 あなたは、現在お住まいの住宅と、住宅のまわりの環境について、どの程度満足していますか。(〇は1つ)

※「住宅のまわりの環境」…敷地や近隣だけでなく、歩いて回れる程度の地域の居住環境を含みます。

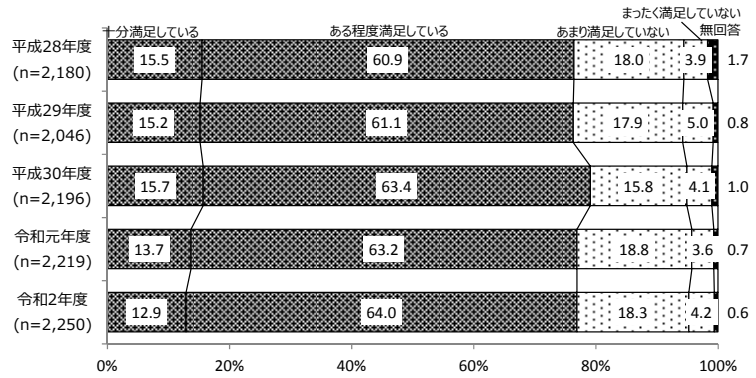
住宅・住環境の満足度

●住宅と、住宅のまわりの環境についての満足度は、「十分満足している」(12.9%)、「ある程度満足している」(64.0%)を合わせた76.9%が満足していると回答している。



経年比較

- 平成28年度以降の推移でみると、満足している割合は7割台で推移している。

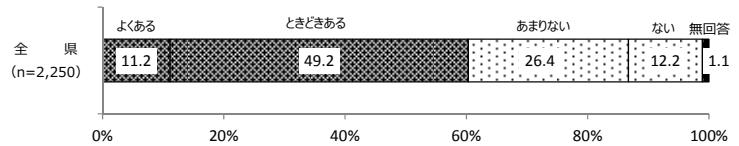


Q14

あなたは、商品・サービスを選択する際に、環境保全、被災地の支援、地産地消、開発途上国の労働者の生活改善など、社会貢献につながるものを意識的に選択することがありますか。(〇は1つ)

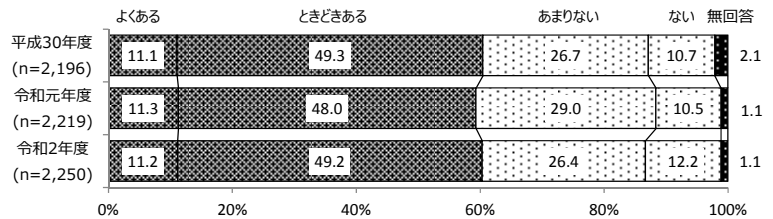
消費者市民社会

- 消費者市民社会については、「よくある」(11.2%)、「ときどきある」(49.2%)を合わせた60.4%が社会貢献につながるものを意識的に選択することがあると回答している。



経年比較

- 平成30年度以降の推移でみると、社会貢献につながるものを意識的に選択することがある人の割合は毎年度6割前後で推移している。

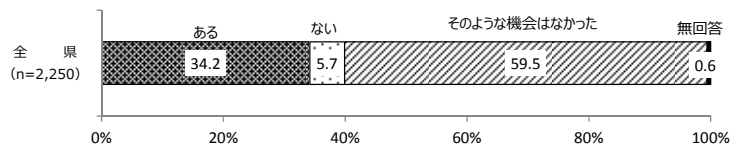


Q15

あなたは、この1年間に、困っている人を見かけた際に声をかけたことがありますか。困っている人を見かけなかった方は「3 そのような機会がなかった」を選んでください。(〇は1つ)

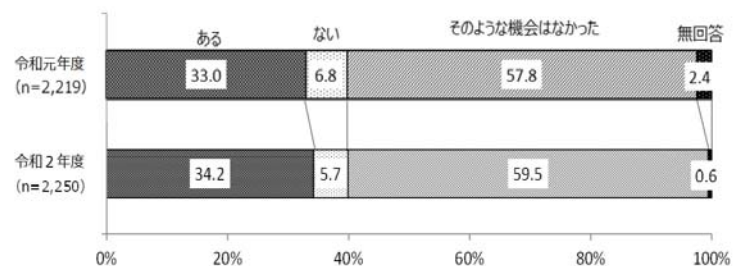
心のユニバーサルデザインの実践

- 心のユニバーサルデザインの実践については、困っている人に声をかけたことが「ある」と回答した割合は34.2%で、「ない」と回答した割合は5.7%となっている。なお、「そのような機会がなかった」は59.5%となっている。



経年比較

- 前年度と比較すると、心のユニバーサルを実践している人の割合は1.2ポイント増えている。



Q16

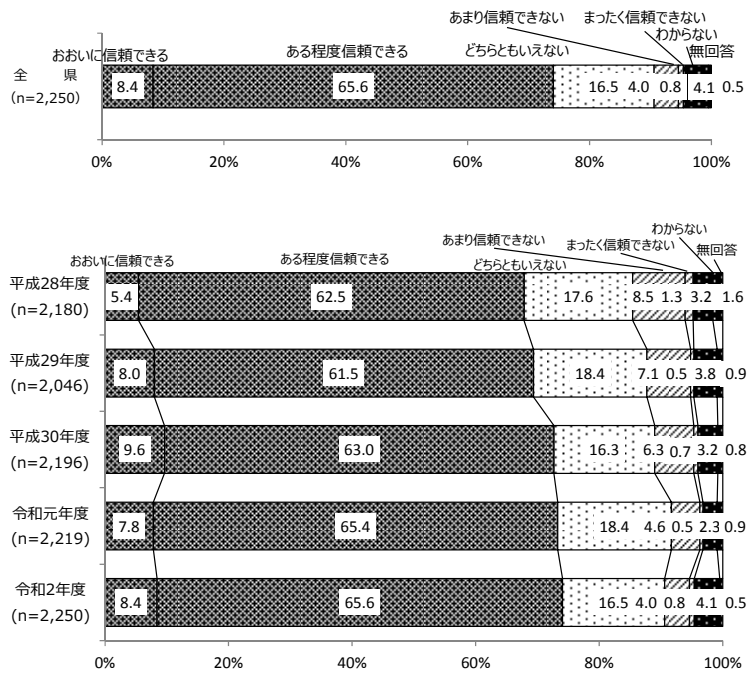
あなたは、県内で購入する食品の安全性について、どの程度信頼できると思いますか。(〇は1つ)

食品の安全性

- 県内で購入する食品の安全性の信頼については、「おいに信頼できる」(8.4%)、「ある程度信頼できる」(65.6%)を合わせた74.0%が信頼できると回答している。

経年比較

- 平成28年度以降の推移で見ると、県内で購入する食品の安全性を信頼できる人の割合は、平成30年度から7割台で推移している。



Q17

あなたは、環境への配慮を実践していますか。(〇は1つ)

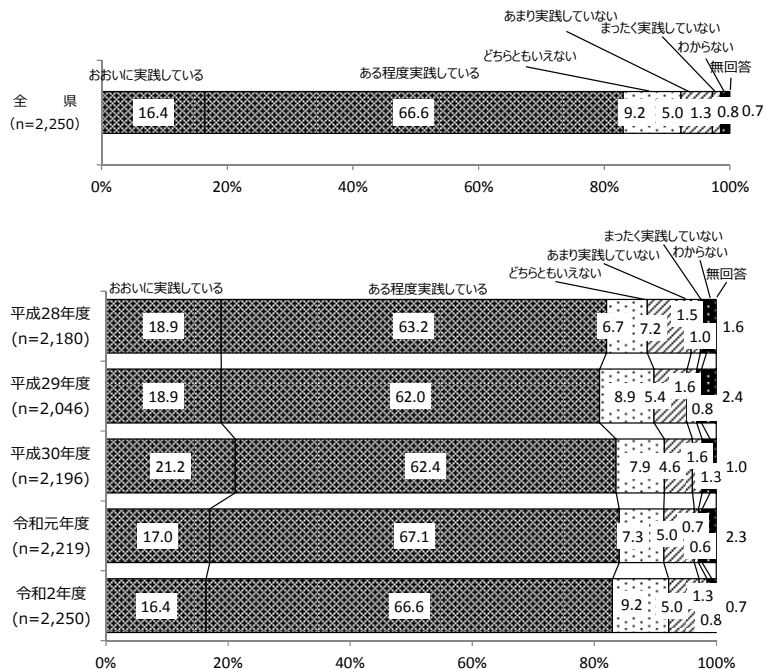
「環境への配慮」の例 節電や節水、家庭ごみの分別、マイバッグの持参、低燃費車や省エネ家電への切り替え、エコドライブ、清掃活動への参加、緑化など

環境保全活動の実践

- 環境保全活動の実践については、「おいに実践している」(16.4%)、「ある程度実践している」(66.6%)を合わせた83.0%が環境への配慮を実践していると回答している。

経年比較

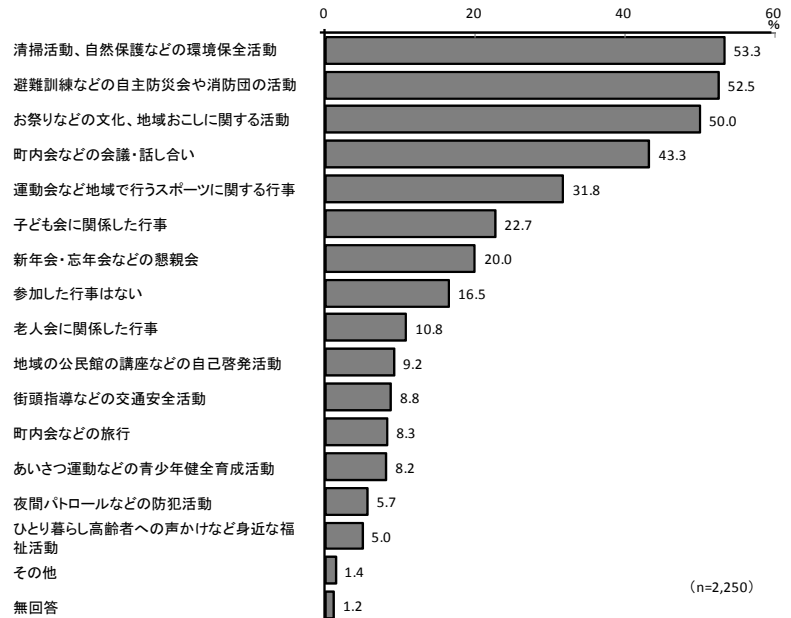
- 平成28年度以降の推移で見ると、環境への配慮を実践している人の割合は毎年度8割台で推移している。



Q18 あなたは、地域のどのような行事や活動に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

県民の地域活動への参加

●参加している地域の行事や活動については、「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」と回答した人が53.3%と最も高く、次いで「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」(52.5%)、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」(50.0%)となっている。



Q19 あなたは、この1年でどのくらい、文化・芸術に関する鑑賞又は活動をしましたか。(〇は1つ)

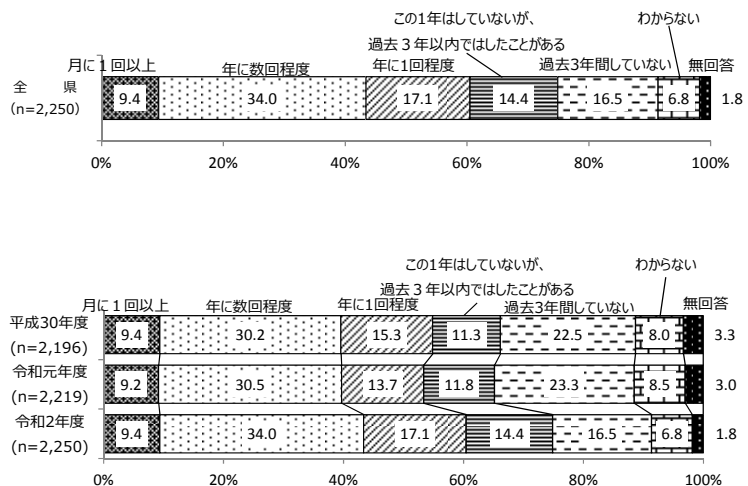
- ※「文化・芸術」とは、芸術(音楽、映画、美術、演劇、舞踊等)、芸能(漫才、落語、歌唱、歌舞伎、能、講談、浪曲等)、文芸(短歌、俳句、詩、小説等)、生活文化(お茶、生け花、手芸等)、お祭りへの参加や見物、文化財(建造物、遺跡、古文書等)を意味しています。
- ※「鑑賞」とは、映画館や美術館、博物館、またホールや劇場などの会場で、作品やコンサートを見たり聞いたりした経験を意味しています。
- ※「活動」とは、個人又はグループで、文化・芸術を継続して行う経験を意味しています。単発の活動やお試しの体験講座等は含みません。
- ※「鑑賞」と「活動」のどちらか一方でも行えば、「経験した」とものとします。

文化・芸術の鑑賞又は活動

●この1年で、文化・芸術に関する鑑賞又は活動をした回数については、「月に1回以上」(9.4%)、「年に数回程度」(34.0%)、「年に1回程度」(17.1%)を合わせた60.5%がこの1年で文化・芸術の鑑賞又は活動をしていると回答している。

経年比較

●この1年で文化・芸術の鑑賞又は活動をした人の割合は、平成30年度から2年連続で5割台だったが、今年度は前年度より7.1ポイント上昇し60.5%となった。

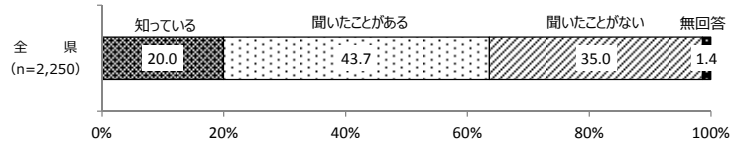


Q20 「生物多様性」という言葉や意味について、どの程度知っていますか。(〇は1つ)

「生物多様性」…地域ごとに固有の自然や特有の生物が存在し、その生物が“食べる－食べられる”といった食物連鎖などの関係でつながっていることをいいます。人類は生物多様性からもたらされる様々な恵みに支えられており、この恵みを今後も享受していくためには、生物多様性を維持し後世へ継承していくことが必要不可欠です。

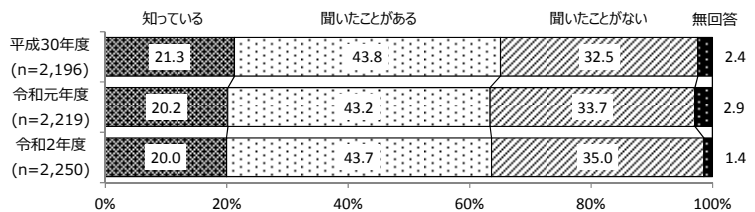
生物多様性への理解

- 「生物多様性」という言葉や意味については、「知っている」(20.0%)、「聞いたことがある」(43.7%)を合わせた63.7%が生物多様性について認知していると考えられる。



経年比較

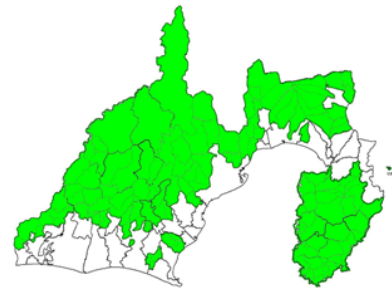
- 平成30年度以降の推移でみると、「生物多様性」という言葉や意味を知っている人の割合は2割台で推移しており、認知している人の割合は6割台で推移している。



Q21 あなたは、中山間地域に住みたいと思いますか。(中山間地域にお住まいの方は、住み続けたいと思いますか。)(〇は1つ)

※「中山間地域」…「平野の周辺部から山間部に至る地域」で、農林業を主な産業としている地域のことをいいます。

※県内の中山間地域のイメージは右図の網掛け部分です。

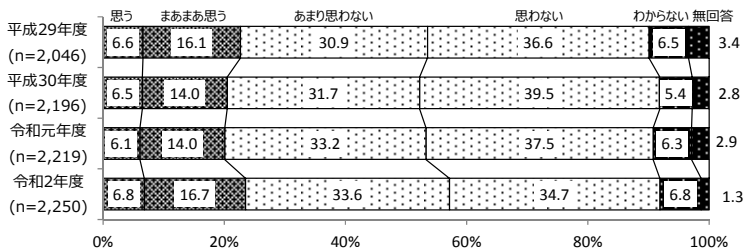
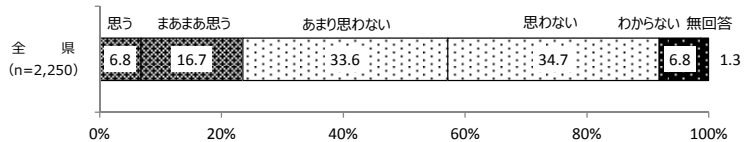


中山間地域での生活意向

- 中山間地域に住みたいと思うかについては、「思う」(6.8%)、「まあまあ思う」(16.7%)を合わせた23.5%が、中山間地域に住みたいと思うと回答している。

経年比較

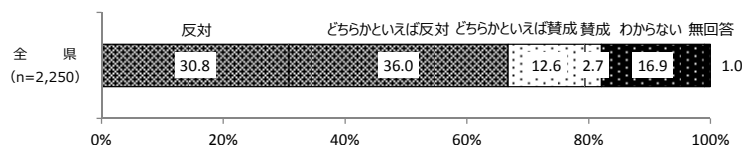
- 平成29年度以降の推移でみると、中山間地域に住みたいと思う人の割合が、今年度は23.5%と前年度(20.1%)を3.4ポイント上回っている。



Q22 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについて、どのように思いますか。(〇は1つ)

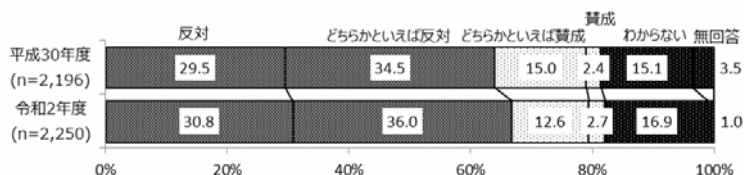
男女共同参画に関する意識

- 男女の役割を固定的に考えることについては、「反対」(30.8%)、「どちらかといえば反対」(36.0%)を合わせた66.8%が、男女の役割を固定的に考えることに反対と回答している。



経年比較

- 男女の役割を固定的に考えることについて、「反対」または「どちらかといえば反対」と思う人の割合は、今年度は66.8%と、前回(平成30年度64.0%)を2.8ポイント上回った。

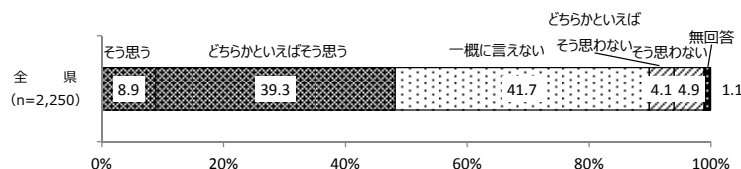


Q23 あなたは、今の静岡県が「人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県」になっていると感じますか。(〇は1つ)

※「人権尊重の意識」…人権は、私たち一人ひとりの生命や自由・平等を保障し、日常生活を支えている大切な権利で、日本国憲法にも保障されています。この権利を尊重し、私たち一人ひとりが自分や他者を大切にしようとする意識のことをいいます。

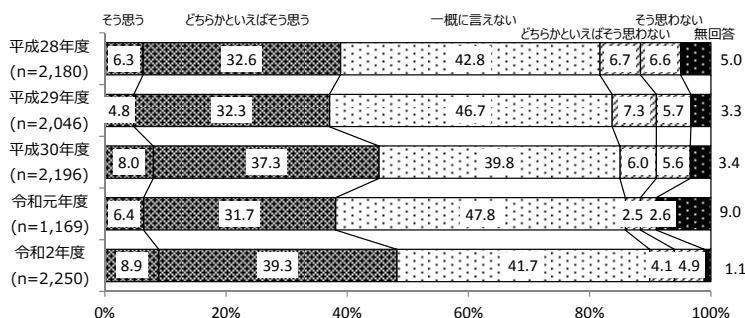
人権尊重の意識

- 「人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県」になっていると感じるかについては「そう思う」(8.9%)、「どちらかといえばそう思う」(39.3%)を合わせた48.2%が、「人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県」だと思うと回答している。



経年比較

- 平成28年度以降の推移でみると、「人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県」だと思う人の割合が、今年度は48.2%と前年度(38.1%)を10.1ポイント上回っている。



※令和元年度について、人権問題に関する県民意識調査(地域福祉課人権同和室実施)の結果を参考値としてグラフに掲載している。

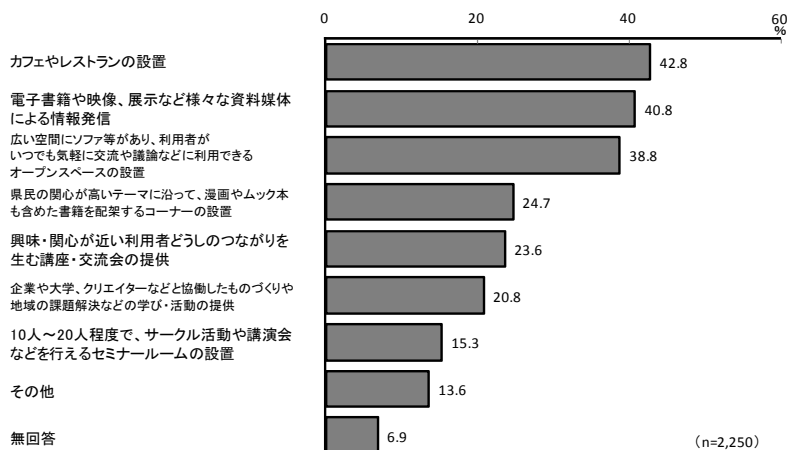
新県立中央図書館の整備

Q24

県では、老朽化した県立中央図書館をJR東静岡駅にある県有地に全館移転し、新しい時代に対応した図書館として整備する予定です。より多くの方に新図書館を利用していただくための取組みとして、どのようなことを望みますか。(〇はいくつでも)

新県立中央図書館の整備

●多くの方に新県立図書館を利用していただくための取組みについてたずねたところ、「カフェやレストランの設置」と回答した人の割合が42.8%で最も高く、次いで、「電子書籍や映像、展示など様々な資料媒体による情報発信」(40.8%)、「広い空間にソファ等があり、利用者がいつでも気軽に交流や議論などに利用できるオープンスペースの設置」(38.8%)となっている。



寄附に関する意識

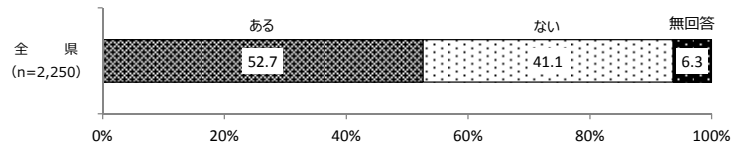
Q25 あなたは、この1年間に、寄附をしたことがありますか。(〇は1つ)

SQ1 寄附をした団体等はどこですか。(〇はいくつでも)

SQ2 寄附をした理由はなんですか。(〇はいくつでも)

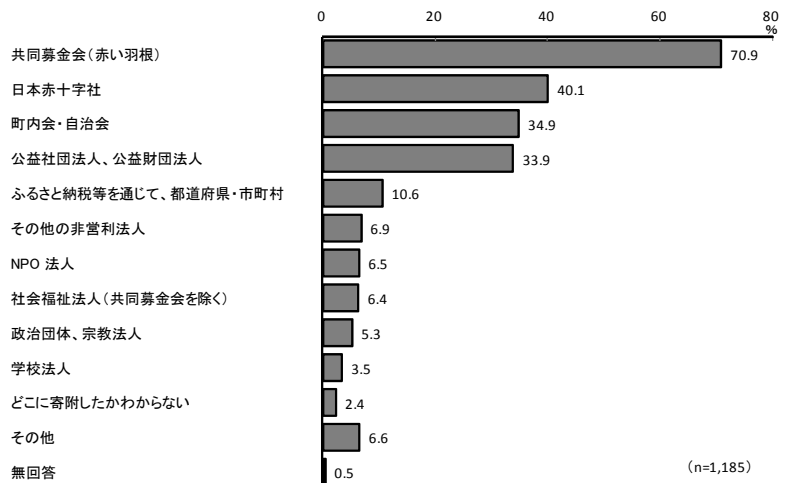
寄附の有無

- この1年間に寄附をしたことの有無については、「ある」と回答した人の割合が52.7%で、「ない」(41.1%)を11.6ポイント上回っている。



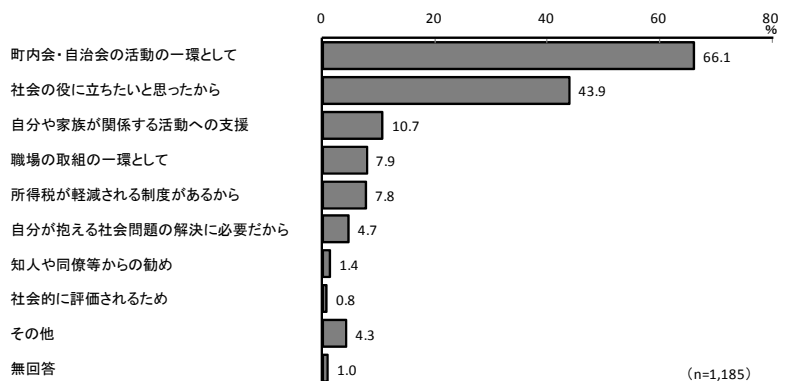
寄附をした団体

- 寄附をした団体等については、「共同募金会(赤い羽根)」(70.9%)が最も高く、次いで「日本赤十字社」(40.1%)、「町内会・自治会」(34.9%)となっている。



寄附をした理由

- 寄附をした理由については、「町内会・自治会の活動の一環として」(66.1%)が最も高く、次いで「社会の役に立ちたいと思ったから」(43.9%)、「自分や家族が関係する活動への支援」(10.7%)となっている。



防犯に関する意識

Q26

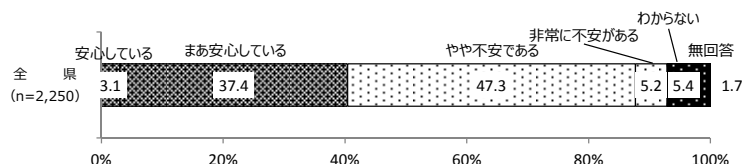
あなたは、あなたやあなたの家族が、県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を、どの程度感じていますか。(〇は1つ)

SQ1

不安を感じている犯罪はなんですか。(〇はいくつでも)

犯罪被害への不安の有無

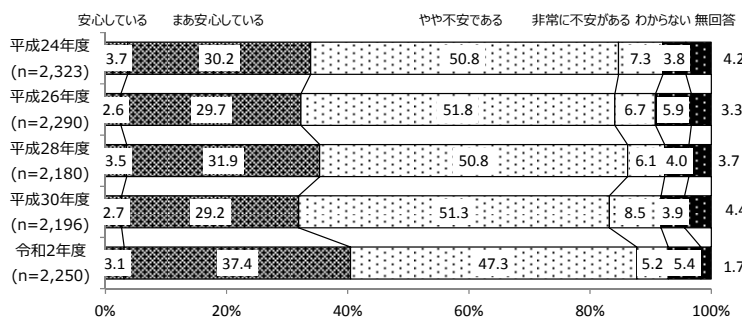
- 「非常に不安がある」(5.2%)、「やや不安である」(47.3%)を合わせた52.5%が犯罪被害への不安を感じていると回答している。



不安である 52.5%

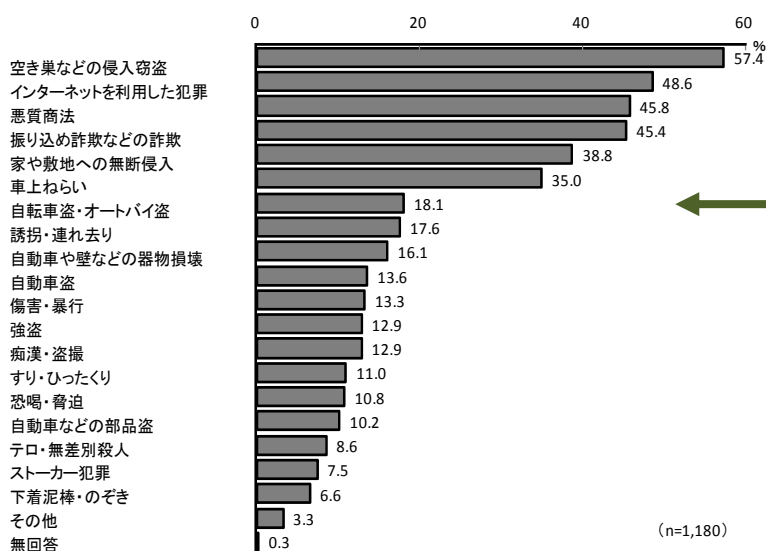
経年比較

- 平成24年度以降の推移で見ると、犯罪被害への不安を感じている人の割合は平成30年度まで5割半ばから6割弱で推移していたが、今年度は52.5%と5割強にとどまっている。



不安を感じている犯罪

- 不安を感じている犯罪については、「空き巣などの侵入窃盗」と回答した人の割合が57.4%と最も高く、次いで「インターネットを利用した犯罪」が48.6%、「悪質商法」が45.8%となっている。



令和2年度

県政世論調査（概要報告書）

令和2年11月

編集・発行 静岡県知事戦略局広聴広報課 県民のこえ班

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

電話 (054) 221-2235

FAX (054) 254-4032

e-mail kenminnokoe@pref.shizuoka.lg.jp
